



第七十四号

会報浄土真宗 太陽の会

「秋の深まりにあたり」

紅葉と落葉を迎え、すっかり秋の気配を感じる今日この頃となりましたが皆様お元気で過ごしてでしょうか？依然続くコロナ禍の中、お疲れではありませんか？

病気はコロナだけではありません。持病をお持ちの方は更なるご苦労・心労をされた事でしょう。私も8月にワクチン接種を終え、2回目の接種の際には高熱を出し、久しぶりに寝込みました。目に見えない病気との戦いは未だ先が見えず、イライラする事もあるかもしれませんが、しかし、そういう時こそ一日一日を大切に、身近の方々を大切に、阿弥陀さまに感謝してどうぞお元気で過ごしてください。

合掌

釋 寛之

「煩惱具足の凡夫」

ほんのうぐそく ほんが



今年もお盆が無事終わりました。お盆つてなに？と問われると「地獄の釜の蓋が開いてご先祖が帰ってくる。」と聞くこともあり。亡者の拷問で忙しい地

獄も正月と盆だけはお休みしてその2日間、亡者も拷問から解放されるといふことだそう。ことわざとしては、正月と盆だけは地獄の鬼でも休んでいるのでお休みにしましょう。という解釈もあるようです。また、お盆にご先祖の墓参りにすら行きたくない人の言い訳には「家のご先祖は地獄に落ちていないので大丈夫。」だと聞きました。みんな自分の都合で面白いです。

親鸞聖人は、自分自身「地獄」以外に行き場所が無い、「間違はなく地獄に落ちる。」と仰られています。地獄に落ちることを免れることができるようなことは何一つできない。地獄に落ちざるを得ないと仰っているのです。

私たちは普段、「よいこと」をして、「悪いこと」をしないようにしています。そうはいつても、毎日の食事の時には、ほかの生き物の「いのち」をいただくことで生かさせていただいています。

また、自分の都合で他人を押しつけたら、傷つけたりしてしまった経験は誰しも一度や二度はあるのでしょうか。そのような私たちのことを「凡夫」というの

です。親鸞聖人の『一念多念文意』にはこのように書かれています。

「凡夫」というのは、私どもの身には、無明煩惱が満ちみちており、欲望も多く、怒りや腹立ちや妬みの心ばかりが絶え間なく起り、まさにいのちが終わろうとするそのときまで、止まることも消えることもなく、絶えることもない。

「間違はなく地獄に落ちる」ほどのことをしながら生きてるのが私たち「凡夫」であることを親鸞聖人はお示しになられています。

しかし、親鸞聖人は地獄に落ちる事は絶対にはないのです。なぜなら、「地獄に落ちざるを得ない」ものこそ、阿弥陀さまは救いたいと願い、念仏による救いを選ばれたのです。これは、念仏をしたら地獄に落ちない、しないと地獄に落ちるというものではない、ありません。念仏は、必ず私たちを救おうとする阿弥陀さまのはたらきの姿そのものなのです。



「お釈迦さまのおはなし」

【お釈迦さまの悩み】

お釈迦さまの母マヤー夫人は、お釈迦さまを出産されて一週間後に亡くなられました。その後、お釈迦さまは、マヤー夫人の妹であるマハーパジャーパテーによって育てられることになりました。

お釈迦さまは、幼い頃から、国王になるために、学問や武芸を学ばれました。何を学んでも、すぐれた才能を発揮し、まわりの者を驚かせました。一方で、感受性が強く、ものごとを深く考える性格に育っていきました。

ある年の農耕祭のことです。人びとが鋤で畑を耕していた時、掘り起こされた土の中から虫が出てきました。その虫を小鳥がついばみ、さらにその小鳥を大きな鳥が（タカ）がくわえて飛び去りました。生き物が、互いに命をうばい合う光景を見て、「なぜ生き物は殺し合わなければならぬのだろう。互いに助け合って生きていくことができぬのだろう

か」という疑問に、心を暗くして樹の下に座り、もの思いに沈まれました。この

出来事は、「樹下思惟じゅげしゆい」として伝わっています。

います。

スッドーダナ王は、お釈迦さまの心をひきたてようと、インドの一年の季節である夏・冬・雨季の三つの季節に合った宮殿を与えました。それらの宮殿では、毎晩若い女性たちははなやかな音楽と踊り、さらにぜいたくな食事がふるまわれました。しかしお釈迦さまは、日常生活がはなやかであればあるほど、かえってもの思いに沈みがちな日々を送られました。

そのようなお釈迦さまを心配されたスッドーナ王は、結婚を勧められ、お釈迦さまはヤソーダラーと結婚しました。しかし、深くものごとを追及する日々は変わりませんでした。



合掌

「クイズ浄土真宗」

- Q、親鸞聖人がおっしゃる悪人とは？
- ① 煩惱を消し去れない私のこと
 - ② いわゆる犯罪者のこと
 - ③ つねに自分本位に行動する人

親鸞聖人は『一念多念証文いちねんたねんしやうもん』という

著書の中で、「凡夫というのは無明煩惱われらが身にみちみちて、欲も多く、怒り、腹立ち、そねみ、妬む心多くひまなくして、臨終の一念に至るまで止まらず、消えず、絶えず……」と述べられています。

これは、身の隅々まで煩惱が沁みわたり、自らの力ではとてもその煩惱を取り除くことができない私たちのことをおっしゃっておられるのですが、この「凡夫」の自覚は、人間社会という



粹を超え、もつと普遍的根源的な真実に照らされて初めてめばえる性質のもので、親鸞聖人は、その凡夫をさして「悪人」とおっしゃられたのです。そうした放っておけない「悪人」だからこそ、阿弥陀仏は本願を起こされ、救おうとされたのだと受け取られたものでした。

法律に違反したとか、道徳的倫理的に望ましくない考え方や言動を行ったとか、そういうことで言われる「悪人」は、人間社会を前提とした話です。しかし、親鸞聖人がおっしゃる「悪人」は、誰もが本質的にもっている自己中心的な執着心を捨て切れない私たちのことだったのです。なお、煩惱は貪欲、瞋恚、愚痴の三毒の煩惱が代表的なものです。

Q、親鸞聖人がおっしゃる悪人とは？

クイズの答え・①

「歎異抄を読む」

『歎異抄』は、親鸞聖人が亡くなつた後、門弟の間に真実の信心に背く異議が生じたことから、聖人から口伝を受けた著者が、同心の行者の不審を除くために著した親鸞聖人の言語録です。



おのおのの十余箇国のさかひをこえて、身命をかへりみずして、たづねきたらしめたまふ御ころざし、ひとへに往生極樂のみちを問ひきかんがためなり。

釋蓮如(『歎異抄』第二条)

「どこに向かつて生きていますか？」

私たちはどこに向かつて生きているのだろう。親鸞聖人は、「さとり(真実)の世界である極楽浄土に向かつて生きているよ」とお示しくださっている。極楽浄土に往生するのは、この世のいのちを終えたと同時であるが、極楽浄土に向かつて生きるの、「いま、ここ」なのである。

「五月〜八月のことば」

太陽の会では、館内入口・本堂入口に「月のことば」を掲載させて頂いております。お経は難しいと思われる方もいらつしやると思います。身近なやさしいお言葉として皆様のお心で味わって頂けたら幸いです。

【五月のことば】

己れに願いはなくとも
願いをかけられた身だ



「藤元正樹」

どんな人間であろうとも、己に願いがなくても、如来の願いを受けた身だ。それを親鸞聖人は言い当てようとするのです。自分に仏法を求めような心はないけれども、仏法を求めるといふ心はない。己れに願心はないけれども、如来の願心を受けた存在である。

【六月のことば】

信心というのは凡夫が

仏さまと同じ命を
共有するという出来事

「大峯顯」

南無阿弥陀仏の大悲の願いに呼び覚まされることによって、その無限のいのちに生きていくものとしての歩みが誕生するのです。その歩みは、これまでのようにひとりぼっちで寂しいものではなくあります。無数の太陽があつて、無数の銀河があり、そういう無数の星群の中の小さな惑星の一つである地球と気づくように、諸仏に護られ歩む、たしかな南無阿弥陀仏の道なのです。

【七月のことば】

人間は我を知らず
我ほど知り難いものはないのである

「高光大船」



かく私たちの無知の間、煩惱の妄念妄執を打ち破つてくださるはたらきが仏さまの光明です。阿弥陀さまの智慧は我見を碎き、自己に執着する縄を解き放ち、やがて苦から楽へ、おごりから「恩へ」と

人間精神の高みに導いてくださいます。執着の強い私たちにとっては、生涯無我の境地に至ることはありえませんが、教法に遭うことで凝り固まった心を解きほぐし、衆縁に生かされている身を体感しつつ、心ならずも生き方をめざすのです。

【八月のことば】

まあ、どこにおつても
お慈悲の中だからのう

「山本仏骨」

老いの時も若き時も、善人の時も悪人の時も、この身このままで救われていくというご利益が念仏の行者には備わっています。私たちはただ「まかせよ、必ずすくう」と喚んでくださるみ仏の仰せにすべてをゆだね、大慈大悲をもつてもろびとを利益する安楽浄土をめざすのです。

「海洋散骨ってなに?」



近年お墓に対する考え方が多様化し、当会でもご用意しております納骨壇、樹木葬、合同供養塔など様々なものがあります。

その一つとして最近、耳にするようになったのが海洋散骨です。

海洋散骨とは、故人のご遺骨を粉碎して海に散骨します。自然に還りたい、大好きだった海に散骨してほしいという故人の生前の意志を尊重して契約されることが多いようです。仏教の思想とは少し異なりますが、お墓を持たないお墓も今後、選択肢の一つになるかもしれません。

今後、当会でも広島・福山・岡山を中心にご皆様にご提案をさせていただきます。準備が整い次第、ご案内をさせていただきますのでご質問等ございましたら、当会までお尋ねいただきますようお願い致します。

当会では今後も
多様化する様々な
お墓の形式につい
て皆様に提案さ
せていただきます。



「**法事予約について**」
ご法事のご予約はお早めにお願致します。マスク・アルコール消毒等のご協力をお願い致します。